



フィリピン・インドネシア

視察ツアー

報告書



一般社団法人コンピュータソフトウェア協会
アジアビジネス研究会
平成 26 年 11 月

【目次】

I. 視察団メンバー	1
II. スケジュール	1
III. 視察報告	2
[フィリピン／マニラ]	
● JETRO マニラ事務所訪問	
● TopConnection.Asia Inc. (TCA) 視察報告	
● Dawn Purple Inc. (DPI) 会議報告	
● University of the Philippines IT Development Center (UP-ITDC) 視察報告	
● ATENEO De Manila University 視察報告	
● NEC Philippine 視察報告	
[インドネシア／ジャカルタ]	
● JETRO ジャカルタ事務所訪問	
● Bisnis Integrasi Global 視察報告	
● Binus University 視察報告	
● Orlandsoft Data System 視察報告	
● JM Technology Indonesia 視察報告	
IV. フィリピン・インドネシア視察ツアーの総括	2 3
V. 参加者の感想	2 4

I. 視察団メンバー

	氏名（敬称略）	会社名
団長	竹原 司	株式会社デザイン・クリエイション インフォグリーン株式会社
団員	村瀬 正典	株式会社バース情報科学研究所
団員	芳賀 紳	株式会社インフィニテック
団員	浅野 悦男	株式会社ビジネスアプリケーション
団員	梶山 桂	株式会社ヒューマンキャピタル研究所
団員	原田 一	ピー・シー・エー株式会社
事務局	原 洋一	一社社団法人コンピュータソフトウェア協会

II. スケジュール

日付	訪問先等	備考
11月2日 (日)	成田出発(9:30) フィリピン・マニラ到着(13:10) 市内観光 リサール公園(記念像)、サンチャゴ要塞、サン・アグ スチン教会、カーサ・マニラ	時差1時間
11月3日 (月)	(午前) JETRO マニラ事務所 訪問 (午後) TopConnection.Asia Inc. (TCA) 訪問 Dawn Purple Inc. (DPI) と TCA にて会議	マニラ
11月4日 (火)	(午前) University of the Philippines IT Development Center(UP-ITDC) 訪問 ATENEO De Manila University 訪問 (午後) NEC Philippine 訪問 マニラ発(20:55) ジャカルタ着(0:05)	マニラ ジャカルタ
11月5日 (水)	(午前) JETRO ジャカルタ事務所 訪問 (午後) Bisnis Integrasi Global(インテック様提携企業)訪問	時差2時間 ジャカルタ
11月6日 (木)	(午前) Binus University 訪問 (午後) Orlansoft Data System 訪問 JM Technology Indonesia 訪問	ジャカルタ
11月7日 (金)	ジャカルタ市内観光 モナス(独立記念塔)、イスティクラル・モスク	ジャカルタ
11月8日 (土)	ジャカルタ発(0:55) マニラ着(6:05) マニラ発(8:50) 羽田着(14:00) 解散	

Ⅲ . 視 察 報 告

【 JETRO マ ニ ラ 事 務 所 訪 問 報 告 】

1. 日時：2014年11月3日（月）10：00～11：00
2. 住所：44th Floor, Philamlife Tower, 8767 Paseo de Roxas, Makati City 1226, Metro Manila, Sun Wah Tower, 115 Nguyen Hue Street, District 1, Ho Chi Minh City, VIETNAM
3. URL：http://www.jetro.go.jp/jetro/overseas/vn_hochiminh/
4. 面会者：大嶋 正治氏
5. 訪問内容：①フィリピン国内現況紹介 / ②質疑応答

①フィリピン国内現況紹介

【 経 済 概 況 】 (為 替 レ ー ト 1 ペ ソ = 2.5 円 2014/11/3 現 在)

- ・人口は1億人を突破（5年に一回国政調査実施）
- ・面積は30万キロ平方メートル（日本の0.8倍）
- ・首都圏人口は1400万～1500万人
フィリピンは、マカティ市にもスラム街があり、貧富の格差が大きい
- ・言語はタガログ語と英語で、特に英語は小学校から教えている。ただし、英語を教える授業ではなく、数学などを英語で教えている。ITなどの企業進出の盛んな理由にもなっている。
- ・宗教はカトリック約80%となっており、第三の都市でもあるダバオはイスラムが多い
- ・スペインの統治、アメリカの統治、日本の後、独立し、マルコス大統領の独裁20年この時期、日本はアセアン地域に工場移転を推進したが、フィリピンにはせず、そのため、フィリピンは製造業が立ち上がっていない。
- ・人口構成図綺麗な釣鐘型、今後の成長の可能性がある
- ・実質 GDP は2010年アキノ大統領就任後、翌年は3.6%と下がり、6.8、7.2%と今年7%を切りそうだがよく伸びている。選挙年は選挙運動でモノが売れるため、就任後翌年はその反動でGDPが下がる。アキノ大統領は2012年(6.8%)、2013年(7.2%)とまずまずな数字となっている。
- ・インフレ率も4～5%をキープしており、原油価格が上がっても自国通貨が強くなっているため、安定している。2008年はリーマンショックでペソが売られ9.3%と高くなっている。
- ・海外で就業しているフィリピン人は約1000万人いると言われており、海外からの送金額は約228億ドルと過去最高となっている。

- ・フィリピン人の多くはアメリカに行くことを考えているが、移民に厳しい政策をとっているため、現在は看護師、介護士は比較的緩いカナダに流れている。担当者いわく、日本は資格に厳しいこと言っていると他の国に流れてしまう。
- ・フィリピン国内の自動車販売台数は、現代を入れると2013年20万台を超える。しかしながら、タイが国内130万台、輸出が130万台、インドネシアも100万台売れていることを考えるとまだ少ない。その理由としては貧富の差が激しいという理由と考えられる。
- ・携帯電話はSIMカードがフリーになっているので台数が1億を超える。

[対日貿易]

- ・バナナとパイナップルが日本向けに多く出ている。日本の9割がフィリピン製である。日本からフィリピンは電気機器が32%と多く、フィリピンから日本は10%が果物などになっている。
- ・日本とフィリピンのみ二国間協定
- ・日本の直接投資は第三位で2012年690億万ペソ、2013年447億万ペソとなっている。外国直接投資は2010年以降多くなっているがアキノ大統領のクリーンなイメージによるものと思われる。日本は2010年キヤノン、エプソン、ブラザー、村田製作所件数は増加傾向にある

[日系企業]

日本は1,260社が進出し18,000人が在留邦人で、他国と比べると9番目となっている。逆に日本への訪日に関しては在留が22万人、訪日が10万人となっている。最近フィリピン人に対してはビザ対応が数次OKになったばかりなので、今後増えると予想される。フィリピンに進出している企業は、バンダイが工場進出、これはCHINAプラスワンフィリピンでは豚骨ブームもあり、ラーメンでは一風堂などが進出している。ウェブやスマホ向けアプリケーション開発では、エキサイトという会社が進出。

[税制優遇制度]

PEZA (Philippine Economic Zone Authority) 輸出特区内に作ると無税
 設立4年間は無税、5年目以降は粗利に対して5%で、法人税に直すと15%くらい
 フィリピンの法人税30%なので半額となる。

通信機器及び装置の製造82社、ソフトウェア開発61社などPEZA認定されている。

[その他]

- ・ゆっくり成長しているためフィリピンの賃料は比較的安い。
- ・フィリピンの電気料金は、先進国並みの高さである。これがある意味弱点と言える。理由：他国は国の補助があるが、フィリピンはないので、原油が上がれば電気料金に跳ね上がる。また、マルコス時代に電源開発を怠り、万年電力不足になり、ラモ

ス大統領時代に外資にオープンしたせいで、料金設定を高くした結果、電気料金が高くなっている。

- ・ヘルスケアが増えているレセプト（米国）や保険会社の事後レビューなど
HIMOAP（ヘルスケア・インフォメーション・マネジメント・アウトソーシング・アソシエーション・オブ・フィリピン）
- ・フィリピンの大卒は50万人（経済／経営／商学10万人、理系 8.5 万人、
残りは看護師、介護士、ホテルマネジメントなど）※大学は実学中心となっている。
ちなみに中国 200 万人、インド 350 万人である。

②質疑応答

Q. フィリピンで設立資本金は？

A. 外資 100 %だと20万ドル必要、ただし、フィリピン資本 6 : 4 にすると5000ペソでOK

Q. コールセンターが多いとのことだがいくらくらいか？

A. 大卒初任給は7000ペソ～8000ペソ、コールセンターは 15000 ペソ～ 20000 ペソと高い、ストレスが多い職場なので高めにしないと来ない

Q. 最低賃金は？

A. 最低賃金は 480 ペソ／日当、セブ 400 ペソ、ミンダオ 300 ペソとなっている。



【 TopConnection.Asis Inc. (TCA) 視 察 報 告 】

1. 日時：2014年11月4日（月）13:00～15:00
2. 住所：15F Orient Square Building F. Ortigas Jr Road, Ortigas Center Pasig City,
Philippines 1605
3. URL：<http://www.the-asiagroup.com>
4. 面会者：Founder & CEO Basilio D. Lasco, Jr 氏
Managing Director Alvy M. Rymundo 氏
COO Jose Edgardo B. Solis氏
CTO Gilbert L. Caro氏
Associate Executive Juliet E. Cristobal 氏
5. 訪問内容：①企業紹介 / ②質疑応答

①企業紹介

ASIA Group(社員総数：79名)

設立 2013年(シンガポール)

社員数：5名

ファウンダー&CEO Basilio D. Lasco, Jr 氏

TopConnection.Asia Inc.

設立 2011年(マニラ)

社員数：12名

- ・ Quick Start Service (クイック・スタート・サービス)

人材育成、現地進出支援、事務所スペース、人材採用、アドミンなどサポート事例) DPI Inc.

MyPlay.Asia Corp.

設立 2012年(マニラ)

社員数：32名

- ・ 人材紹介

HelloPlanet Inc.

設立 2013年(マニラ - 東京)

社員数：30名

- ・ オンライン英会話

[所感]

TCAの最大の特徴は、クイック・スタート・プログラム(QST)で、フィリピンで事務所をオープンするときに、仮オフィスの提供や人材の確保を代行してくれるサービス。これによりリスクヘッジにもなる。成功事例としてDPIがある。



【 Dawn Purple Inc. (DPI) 会議報告 】

1. 日時：2014年11月4日（月）13：00～14：00
2. 住所：TCA 会議室にて
3. URL：<http://www.ndesign.co.jp>
4. 面会者：(株)エヌ・デザイン 国際事業部長 杉崎 英嗣氏
(Dawn Purple Inc. マネージャ)
5. 訪問内容：①企業紹介 / ②質疑応答

①企業紹介

2013年2月設立

(株)エヌ・デザインの子会社としてフィリピンに設立

コマーシャルや映画の映像編集作業を行う会社

日本人1名、フィリピン人22名（うち2名アドミン）

PEZA認定会社

★ TCA のビジネスであるクイック・スタート・サービスを利用した成功事例として話を聞いた。

[TCA の役割]

人材の確保、スタート時の仮事務所等

2013年4月 TCA で仮スタート、7月オフィススタート、2014年1月正式営業開始

[人材確保について]

フィリピンは優秀な人材は難しい 英語ができる優秀な人間は国外に出てしまう。

給与を多めに支払い、鍛えながら使用していく。たまに家族と暮らしたいとの理由で国内にとどまる優秀な人材を確保する。

それなりのレベル確保をするためには、日々30から50名の応募数があるので、TCA 側でスクリーニングを担当。現在合計30名以上採用している。

②質疑応答

Q. なぜフィリピンに設立したのか？

A. タイ、シンガポールは人件費が高い、マレーシアはイスラム風習が不透明なので、次を狙うのはあり、中国は反日がひどい、結果としてベトナムとフィリピンとの比較となった。ベトナムは英語の問題で、フィリピンを選択した。英語で直接コミュニケーションできることが一番である。

Q. フィリピンの雇用問題について

A. 本人からは次は決まってないというが、本当は決まっているようだ

フィリピンの契約は労働者の権利が強い（労働者は悪くないという立場考える）

辞めてから会社が悪いということから訴えてくる可能性もある。

13か月目の給料を支払うとか辞めさせるときに5日間分払うとか（心づけ）をすると後から訴えることはない

人事問題は TCA が責任を持っている

フィリピンの法律では、雇用後半年は自由に首を切ることができる、そのため、TCA で半年、自社で半年を見れば、トータル1年は雇うときに判断できる時間が取れる。当然自社での半年で問題があった場合は自社で責任を持つ必要がある。

- Q. 日本に比べるとトラブルが多い？中国よりも多いのでは？
- A. 日本は世界でもトラブルが少ない方、中国と比べるとフィリピンはおとなしいストライキも少ない
- Q. 採用判断（基準）はどのようにしているのか？
- A. 5日間テストを見て、判断する。資格は見ていない、センス、経験で判断する
- Q. 現在抱える問題は？
- A. 一人でマネジメントをしているので、風邪も引けない
そのため、次の海外拠点を開発することもできない。フィリピンに縛られている状態になっているので、早くしっかりさせたい。フィリピン人に引き継ぐにもいろいろ問題がある。
- Q. パッケージソフトは使用しているのか？購入はどのようにしているのか？
- A. 会計ソフトは使わず、給与計算等は会計事務所に出している。ソフトを買う場合は、オートデスクの代理店から買うかECサイトから買う。

〔所感〕

設立から現在の環境を作り上げるまで、立ち上がり早いことに一同感心した。フィリピンに会社を設立して、必要な人材を確保して早くに日本から仕事を受ける体制を整えている。TCAを利用して、まさにクイック・スタートしている事例である。ただ、立ち上げには杉崎さん個人的パワーも大きく影響していると感じた。



【 University of the Philippines IT Development Center(UP-ITDC) 視察報告 】

1. 日時：2014年11月4日（火）9：00～11：00
2. 住所：2/F Vidal A.Tan Hall(NISMED), Quirino Ave., Cor.Velasquez St.,
University of the Philippines, Diliman, Quezon City 1101, Philippines
3. URL：<http://ittc.up.edu.ph>
4. 面会者：Director, UP-ITDC

Plof. Paulo Noel G. Paje 氏

Assistant Vice President for Development

eUP Project Director Jaime D.L. Caro, Ph.D 氏

5. 訪問内容：①学校紹介 / ②校内見学

①学校紹介

以前はUP - ITTCと言っていた。ソフトウェア開発、ネットワークシステム、組み込みシステムなどのトレーニングセンターとして2003年にフィリピン大学とJICAによって設立された。パートナーシップとしては、マイクロソフト、（サン・マイクロシステムズ）、シスコシステムズ、オラクル

- ・ 国内で初めて ISO9001:2008 の認定を受けたITトレーニングセンター
 - ・ American Accreditation Standards (AMAD) に準拠
 - ・ European Accreditation Standards (RVA) に準拠
- [パートナー組織]

- ・ Japan International Cooperation Agency (JICA)
 - ・ European IT Service Center
 - ・ United Nations Educational Scientific and Cultural Organization
- [狙い]

- ・ 学術およびIT業界と協力して、効果的かつ効率的な方法で、ハイレベルで実用的なIT研修を実施。
- ・ IT企業によって必要なスキルとITエンジニアを育成することで、IT業界のニーズをサポート

[プログラム]

- ・ ITの6か月コースプログラム
前半3か月（6月 - 8月）後半3か月（8月 - 10月）
IT授業のほかにビジネス&コモンスキルと日本語授業 200時間を行う。
- ・ 特別短期コースプログラム
- ・ ITコンサルティング

[所感]

UP-ITDC は大学を出た人がITを勉強するために入学するところで、ITコンサルティングとしても行っており、実業の伴ったセンターと言える。ここのショートプログラムを利用することにより、日本のITエンジニアが英語で仕事をするための勉強をすることが可能である。

②校内見学



【 ATENEO De Manila University 視察報告】

1. 日時：2014年11月4日（月）11：30～12：00
2. 住所：Lower Ground Eliazo Hall, Katipunan Ave Loyola Heights, 1108 Quezon City, Philippines
3. URL：<http://www.ateneo.edu/is/soh/allc>
4. 面会者：Acting Director
Ateneo Language Learning Center Annette A. Soriano 氏

5. 訪問内容：①センター紹介

①センター紹介

創設：1959年Ateneo de Manila University(ADMU、アテネオ・デ・マニラ大学)

Society of Jesus が運営する私立のカソリック系総合大学（学部生7731名）

附属小学校から大学院までの教育体制を有している。

ALLCは、アテネオ大学の文学部の下にあるランゲージセンターで、英語のプロフェッショナル育成のためのセンター。

日本では京都大学がパートナーシップを結んでおり、大学院生を受け入れている。

他にも南山大学、明治大学、九州大学などとも結んでいる。

授業料としては、スタンダードとして1か月10万円（授業料）住むところ含め28万円で全部というモデルで、内容によってカスタマイズ可能。

現在は大学の先生が多くなっている。（英語で教える能力）



【 NEC Philippines 視察報告】

1. 日時：2014年11月4日（月） 14：00～16：00
2. 住所：4F, Rufino Bulilding 6784 Ayala Ave., Makati City Philippines 1226
3. URL：<http://ph.nec.com>
4. 面会者：President Agnes A. Gervacio氏
Senior Vice President Tsuyoshi Sawad氏
Sales &Marketing Business Operation Director
Elizabeth Tirona Pangan氏
Technical & Engineering Service Officer-In-Chrg
Jesse Jerome Adrian L. Garcia氏
Enterprose olutions Acout Executive Shotaro Inoue氏
中華圏・APAC本部（南東アジアG） 西尾 厚樹氏
5. 訪問内容：①企業紹介 / ②質疑応答

①企業紹介

NEC Philippines Inc.

代表者：Agnes A. Gervacio氏

設立：1996年

IPネットワークとデータネットワーク、および情報通信技術（ICT）の統合を提供することによって、そのカバレッジを強化し、ITソリューションや政府、小売、銀行と金融のための業界横断および業界固有のニーズに応えるサービス、およびコンタクトセンター

主要顧客は、フィリピンのセブンイレブン、ユニクロ、イオン、フィリピン国家警察、航空輸送オフィス、ペニンシュラマニラ、ABS-CBN、スタジオ23など

②質疑応答

Q. 日本だと受託開発が中心だがフィリピンでは、日本のパッケージを使うことはないのか？たとえば、NECの持っているパッケージや日本製品を持ってきて使うとかは？

A. フィリピンではない、現在NECのパッケージソフト製品はない、SAPなどを導入したりはある。ターゲットは日系企業のITインフラやそれに合わせて、ソフトウェアを導入する。

担当者曰く「NECはPLDT（フィリピン長距離電話会社）のクラウドのインフラを入れたが、クラウドに載せるソフトを探している」とのこと

Q. フィリピンのローカルソフトを利用する会社が多いのか？

A. フィリピンのローカルソフトは増えてきている、価格が安かったりという理由でしかし、それも最近の話で、日系企業はやはり、日本の安定したソフトを使うのではないか

- Q. フィリピンではクラウド提供のソフトは増えているのか？
- A. NEC はクラウドインフラを提供しているので、ユーザ状況はわかる。
その点では、ユーザは増えてきている。
- Q. フィリピンの日系企業の判断は本社にディシジョンがあるのか？
- A. 現地で決めるようになっている。日系企業も来た当初は本社だが、ある程度大きくなると独自で判断している。
- Q. フィリピンの地元の基幹システムはどのような ERP ソフトを使っているか？
- A. SAP やMSダイナミックス、ネットスイート、オラクルなどを使っている

[所感]

NEC フィリピンはフィリピンの大手日系企業に対して、ネットワークインフラなどトータルにソリューション提供している。このところ BPO（ビジネス・プロセス・アウトソーシング）が伸びているとのこと。フィリピンにおいては、NEC フィリピンの話しを聞くことで、日系企業のIT事情を聴けたのは有意義だった。

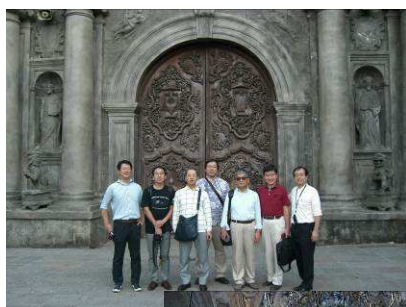




リサール公園内

マッカーサーとも記念写真。英雄リサールを幽閉したサンチャゴ要塞を通過して歴史館を見学

リサール記念像：到着日に少しだけ観光を！



世界遺産のサン・アグスチン教会にも行きました 素晴らしい！！

宿泊ホテル内のレストランで懇親会



時間があつたのでケソンメモリアル記念塔で記念撮影。高くて記念撮影に入らなかった！

【 JETRO ジャカルタ事務所訪問報告 】

1. 日時：2014年11月5日（火）10：30～12：00
2. 住所： Summitmas I, 6th Floor, Jl. Jend. Sudirman Kav. 61-62, Jakarta 12190 Indonesia
3. URL：http://www.jetro.go.jp/jetro/overseas/idn_jakarta/
4. 面会者：課員 藤江 秀樹氏
5. 訪問内容：①インドネシア国内現況紹介 / ②質疑応答

①インドネシア国内現況紹介

〔経済概況〕（為替レート 1ルピア=0.01円 2014/11/5 現在）

- ・人口は2億4千万人（世界4位）：現在は2億6千万人いると言われている
- ・面積は191万931キロ平方メートル（世界16位）
- ・名目GDPは8703億ドル（2013年世界16位）経済規模はタイの2倍で一人当たりGDPは3509.8ドル、3000ドルを超えると耐久消費財が売れると言われている。
- ・インドネシアの社会構造は、少数派華人が経済影響力は強く、女性の進出が目立つ女性も結婚しても働き、大家族で子供の面倒を見ることが多い。働き者と言われている。

[インドネシア特徴]

① 世界最大の島嶼国

13000を超える大小の島々で構成

東西5,110キロメートル（北米を超える広さ）

ジャワ島に人口集中（1億3656万人：7%の面積に総人口の6割が集中）

日系企業の進出も95%がジャワ島進出している

日系企業の

② 多様性と寛容性

総人口の89%はムスリム国家でありながら、イスラム教は国教ではない
「唯一神への信仰」第一原則としている。

1,128民族集団、745言語で国語である

③ 廉価で豊富な労働力

インドネシアはアセアン地域ではフィリピン、ベトナム並んで労働賃金が安い
最近賃金上昇圧力が強い状況で、労働組合が活発化している
2011年に比べて2014年は倍くらいになっている。

（ジャカルタ特別州2011年：1,290,000 → 2,441,000ルピア）

就労人口は毎年2～3百万人の増加が続く

④ 豊富な資源

石炭、石油、天然ガスが豊富で、鉱物資源も錫、銅、ニッケルなどあり、日本はニッケル鉱はじめ錫鉱などインドネシアから輸入している。

[日系企業]

- ・日系企業の直接投資は2013年国別で首位になった。前年比に2倍、2011年に比べ3倍となっている。2013年の大部分が自動車関係となっている。
- ・ジャカルタの工業団地は、丸紅、住商、伊藤忠、双日、大成建設と進出している。
- ・IT関連の進出企業としては、楽天、NTT データなどがあり、楽天は物流を現地委託し、代引きを導入している。イオンモールも2015年春に進出。

[耐久消費財]

自動車は2013年 123 万台、二輪車は 774 万台で中国、インドに次ぐ第3位
自動車は95%が日本ブランド、二輪車は99.9%が日本ブランド
家電普及率は、テレビが70%、冷蔵庫、洗濯機は、まだまだだが、上がって来ている。

インドネシアは親日的なマーケットである。DAISHOも進出している。

[ビジネス課題]

- (1) インフラ不足・・・交通インフラ、エネルギーインフラ
- (2) 法的不透明性、低い予見可能性・・・税制、通関、労働などルール変更が場当たり、恣意的な制度運用

②質疑応答

- Q. 携帯電話、パソコンなどの普及はどうでしょうか？
- A. 携帯電話の普及はしていて、個人で複数持っている。スマホは数年前にブラックベリーが流行った。パソコンは個人にはあまり普及していない、むしろスマートフォンが主流となっている。



【 Bisnis Integrasi Global 視 察 報 告 】

1. 日時：2014年11月5日（水）14：00～16：00
2. 住所：Wisma Indovision 2 Jl. Raya Panjang Kompleks Green Garden Blok A-8, No.1,
Jakarta Barat 11520
3. URL：<http://www.big-solution.net>
4. 面会者：Director Wanti Wy氏
Marketing Executive Oky Budi Prasetyo氏
㈱インテック 伊藤 隆介氏
5. 訪問内容：①企業紹介 / ②質疑応答
①企業紹介
PT. Bisnis Integrasi Global (big)
President Rudy Tanoesoedibjo
設立 2013年（インドネシアで歴史ある PT. DNR Distribution
<http://www.dosniroha.com/> から独立）
社員数：31名
（DNR は設立 50年、社員数 3000名）

【 業務内容 】

インドネシア国内でインテグレーションサービスを提供する会社
マネジメントサービス - DNR に対して提携（売上比率 10 %）

- データストレージ・マネジメント・サービス
- ミッドレンジ・マネジメント
- マネジメント・ネットワーク・サービス
- インフラストラクチャ・マネジメント
- ソフトウェア・エンハンスメント

ソフトウェア開発 - 外部に対して提供（売上比率 90 %）

- ホスピタル・インフォメーション・システム
- セールス・フォース・オートメーション・システム
- ファーマシー・インフォメーション・システム
- インベントリ・オプティマイゼーション・システム
- リソース・マネジメント・システム

【 ビジョン 】

最先端のビジネスのための好ましいパートナーとして、高機能な製品、優れた顧客サービス、そして顧客に優れた価値を提供する

②質疑応答

- Q. 会計ソフトはどのようなものを使っているのか？どのように購入しているのか？
- A. 本屋で買える会計ソフトがある「ZAHIR」200万ルピア（2万円程度）
他に「ACCURATE」という製品があるが、2000万ルピア（20万円程度）2ユーザ迄
1名追加ごとに2万円プラスと高い、あとはExcel ベースで管理している
- Q. 学校関係に製品などを売る会社は知らないか？

- A. 学校関係はあまり詳しくはないのでわからないが、Rudy氏が教育関係のソフトを持っている会社は知らないかと言われたので、今後確認して連絡するとのこと
- Q. SFAを販売するのに、ターゲットはどのくらいの規模で、値段はいくらを考えている？
- A. SFAはグループ会社へ販売が最初だが、今後の販売価格は2000万円で200ユーザ、1ユーザ追加15000円。販売先としては、銀行でお金の回収に対して追っかける上で必要となる。
- Q. インドネシアは、300～500名の会社はサーバシステム、インターネット環境はできているのか？
- A. サーバシステムは一般ではない、そんなにプロバイダーは多くなく、インターネット環境もまだまだで、それを販売する会社は10社程度ある。

[所感]

今回のツアーでは、日本のパッケージソフトおよびクラウド、各種サービスの提供をどのようにインドネシア国内に提供できるのかを探る目的であったため、インドネシアでシステムインテグレータをしているBIGとの意見交換はとても有意義なものとなった。BIG側も日本の参加者のサービスに対して、活発な質問をしていた。今後、インドネシア国内に対して販売提携の可能性もあると感じた。



【 Binus University 視 察 報 告 】

1. 日時：2014年11月6日（水）10：00～12：00
2. 住所：Jalan Kebon Jeruk Raya Blok Samudra No.27, Jakarta, Kota Jakarta Barat,
DKI Jakarta 11530
3. URL：<http://www.binus.ac.id>
4. 面会者：BINUS Collaboration Center
Collaboration Center Manager
Theodora Subyantoro-Imbenay 氏
Corporate Relations & Placement Service Section Head(Associate)
Yuli Dwi Dianasari 氏
Internationalization & Partnership Program Coordinator
School of Computer Science
Santy 氏
Program & Collaboration Coordinator
Adre Zaif Rachman氏

5. 訪問内容：①大学紹介 / ②質疑応答 / ③校内見学

①大学紹介

1974年コンピュータ塾としてスタート、1996年大学に、2000年 Binus センターを設立
卒業生80,000人以上／全生徒数30,000人以上（5つのキャンパスに分かれている）
先生方4,000人以上／パートナー9000人以上／海外大学パートナー90人以上
Binus 大学の他に、Binus インターナショナル、Binus オンラインラーニングを提供
[コンピュータサイエンス関連の生徒数]

コンピュータサイエンス・・・7366名
コンピュータサイエンス&数学・・・236名
コンピュータサイエンス&統計・・・92名、
モバイル・アプリケーションテクノロジー・・・92名
ゲーム・アプリケーションテクノロジー・・・197名

②質疑応答

- Q. 大学紹介ビデオは親向けなのか？
A. インドネシアは高校卒業後、親も招待して、最終的に決めるのは両親なので紹介ビデオはそのようになっている。私立は親が決めることが多い
- Q. 1年間の授業料はいくらか？
A. コンピュータサイエンスは4年間で1億3000万ルピア(130万円)、アニメとかは1億6000万ルピア(160万円)
- Q. 卒業者はどのように企業に就職するのですか？
A. 毎年1200名の卒業生がいるが、外資系（マルチナショナルカンパニー）、起業する、ローカル会社（自社でIT技術者を保有）に排出する。
目標としては、卒業者のうち3分の2がマルチナショナルカンパニーに入るか、起業すること。

③校内見学



成績優秀な生徒はアシスタントとして後輩に教えるプログラムがある



できたばかりのゲーム開発クラスでは、MAC が並ぶ環境



<図書館が併設／オープンスペース>



【 Orlandsoft Data System 視 察 報 告 】

1. 日時：2014年11月6日（水）13：00～14：00
2. 住所：278, Theinbyu Road, Botahtaung Township, Yangon, Myanmar
3. URL：<http://www.orlandsoft.com>
4. 面会者：Marketing Director Tjandra 氏
Account Mnager Devita 氏
5. 訪問内容：①企業紹介 / ②質疑応答

① 企業紹介

PT. Orlandsoft Data System

設立：2001年（Orlandsoft ERP の最初の販売は2003年）

インドネシアで ERP ソフトウェアの提供会社

社員数：100名（本社40名、卸会社10名、販売会社50名）

2005年 100 ユーザを獲得

2010年 INAICTA Merit Award を獲得

② 質疑応答

Q. 御社の ERP 製品はいくらで販売しているのですか？

A. 1 ユーザ 900 ドル最低25人でインフラ料金は別（インフラはインドサット）

Q. 御社のターゲット市場は？またコンペ製品は？

A. ターゲット市場は最低5支店（25ユーザ）売上500万ドルを想定
コンペ製品としては SAP やMSダイナミックス

[所感]

インドネシア企業として、クラウド型の ERP システムを販売しており、その販売の仕方など、とても参考になった。今後見習うべき手法が学べた会社と言える。



【 JM Technology Indonesia 視 察 報 告 】

1. 日時：2014年11月6日（水）15：30～16：30
2. 住所：Sovereign Plaza 6th Floor Jl. TB Simatupang Kav.36 Jakarta 12430 Indonesia
3. URL：<http://www.id.jmtech.co.jp>
4. 面会者：President Director 前田洋二氏
Operation Planning Manager Emiliana Dewi Aryani 氏
Research Development Manager Anton Tri Argono 氏
ジェイエムテクノロジー株式会社 岩崎大氏

5. 訪問内容：①企業紹介

①企業紹介

代表者：前田洋二氏

社員数：50名（ブリッジSEが3名程度）

設立：2012年

CSAJ会長会社のグループで、日本のジェイエムテクノロジーのインドネシア開発会社
スマホアプリの開発を行い、日本のオフショア先として開発が100%。

今後は日本側からインドネシアに進出している会社へ営業をかけていく予定。

そのため、日本人会を利用して日系企業へアクションしていく

[所感]

インドネシアに進出している企業の一社として訪問、企業の内容については事前にセミナーで聞いていたため、インドネシアでの人材の獲得について、雇用状況、生活環境、苦勞したことなど様々なことを聞くことができた。



モナス（独立記念塔）

モナスに入って一番上に上られるらしいが、1時間待ちということで諦めました。



イスティクラル・モスク

すごく厳かな場所でした！



イスティクラル・モスク内

男女で別れていて、旅行者は絨毯のこのエリアには入れてもらえませんでした。

IV . 総 括

前年秋のベトナム・ミャンマーに続いて、今年は、アセアン経済の中心を占めつつあるフィリピンとインドネシアを訪問した。人口は8000万と2億4000万。両国を合わせて日本の3倍に近い。さらに、若年層が多く今後も人口増が続く、日本とは真逆の環境にある。

今回の訪問の目的は、ズバリ、日本のソフトウェア・パッケージやクラウド・サービスは、アジアで売れるか、そこに市場はあるか、を知ることになった。

マニラでは、地元のITベンチャー企業、日本の大企業の現地法人、国立大学のITセンターを訪問。ジャカルタでは、地元大企業と日本のIT大手との合弁企業、日本のIT系上場企業の子会社、私立の理工系大学、そして、極めて稀な地元のERPパッケージ・ベンダーを訪問した。

これらの訪問の中で、地元のIT事情に詳しい方々と次々に出会い、この地域のIT市場の実情をつぶさに知ることが出来た。

経済的な格差が、日本とは格段に大きいこの地域に置いては、巨大企業はすでにグローバル企業のレベルに達しており、基幹システムはSAPで統一されている。これらの企業は数十億円の投資もいとわぬ体力を有し、社内やグループ会社に専門のエンジニアを多数抱えている。

しかし、この規模に達しない大部分の中小中堅企業は、高価な欧米のソフトウェア製品を購入することは出来ない。また、国内に廉価な業務ソフトウェアを開発する企業もほとんど存在しない。例外的に本屋で売られている廉価な会計ソフト等はあるが、その機能では、まともな企業のニーズには応えられない。結局、この規模の企業は、自前で開発者を抱えて開発するか、スクラッチでの開発を外注することを選択する。人件費は日本の4分の1程度であるため、開発しても大きなコストにならないためである。

その金額レベルは、中小企業で100万円以下、中堅企業で2～300万円以下というのが相場ようだ。100%のオーダーメイドでもこの金額で済むため、この規模の企業向けパッケージソフトはほとんど存在しない。現時点では、日本のソフトウェア・パッケージが主たる市場とする中小中堅企業向けの業務パッケージ市場が存在しないのである。

しかし、急激な経済成長と毎年20%を超える人件費の高騰は、まもなく、この規模の企業向け業務パッケージあるいはクラウド・サービスを必要とするマーケットを確実に産み出すとみられる。それを支えるITインフラはすでに充分整っている。パブリッククラウドを用いた弊社の文書管理クラウド・サービスを現地でデモしたが、十分に使用に耐える応答性を示した。

この中小中堅企業向けの新たな市場に対してアメリカの企業は値下げしてまでの対応は考えない。あくまでグローバルな統一価格を維持する戦略を貫く。そこに、日本のITベンダーの活路があると思えた。

多くの地元企業から次のような声を聞いた。「アメリカのパッケージやサービスは、高くて使えない。日本には、もっと安くていい“もの”があるはずだ。」

日本車のシェアが90%以上。バイクに至っては99%というこの地域の人々は、ITに関しても同様のことを日本に期待している。

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会
理事 アジアビジネス研究会 主査
㈱デザイン・クリエイション
竹原 司

VI . 参 加 者 の 感 想

視察とは別にインドネシアでお会いしたアクシスITソリューションインドネシアのディレクター曰く、「今のインドネシアは、東京タワーの代わりに高層ビルが立ち並ぶ、片手には携帯をもった映画「三丁目の夕日」の状態」だそうです。

若者の人口が多く、活気があり、皆が将来は裕福になれると信じている国、それが今回訪問したフィリピンであり、インドネシアでした。

CSAJ荻原紀男会長の方針の1つに「グローバル化の推進」があり、

①海外へのビジネス拡大をサポート②アセアン地域の海外人材活用③日本のIT技術者をグローバル化④最新IT事情をタイムリーに会員へ情報提供があげられています。

今回の視察は、まさにこれを実現する手がかりを示していたものであったと感じられました。

訪問したTopConnection.Asia Inc. (TCA)は、①を提供してくれる会社であり、University of the Philippines IT Development Center (UP-ITDC) と ATENEO De Manila University は、実地の英会話習得として③の機能を Bisnis Integrasi Global、Binus University と Orlandsoft Data Systemの視察は、現地のIT事情の情報収集として④を NEC Philippine、JM Technology Indonesia では、現地日系企業の現状と現地人材活用状況を②として知ることができました。

アジアビジネス研究会の目的に「日本のソフトウェアを海外で販売する」という目標もあります。

そのため、それぞれ視察の際、どこでも使用するはずである会計ソフトに限定した格好となりますが、販売するための現地の状況を確認するため、視察先がどういったソフトを利用しているか、どういったルートで購入したかなどを積極的に聞いてみることにしました。ごく一部の状況とってしまえば、それだけかもしれませんが、現地の生な情報を得ることができたかと思っています。

今回の視察を踏まえ、IT技術者のグローバル化とセキュリティ技術者の養成を合わせた講座を UP-ITDC で行ってみるのもいかかだろうか

などといろいろと夢の膨らむ視察でありました。

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会
理事
(株)バース情報科学研究所
村瀬 正典

私は3度目のフィリピン、4度目のインドネシア訪問でありましたが過去に比べ両国ともに大きな発展をとげておりました。

とくにインドネシアはジャカルタ滞在が5年ぶりということもあり、高層ビル、モール、目につく高額な自動車等々驚くべきものがありました。

さらにJETRO(ジェトロ)、企業の他、フィリピン大学、アテネオ大学と、BINUS 大学など教育機関を訪問。日本でも今まさに進められているアクティブラーニングを目の当たりにし、将来、インドネシアがアセアンの盟主となる(両国とも人口構成が三角形、特にインドネシアは発展の基盤となる人口が世界四位) 日も近いことを実感いたしました。

弊社にもインドネシア出身者がおりますがこのコネクションを今後深めていきたいと改めて決意致した次第です。

株式会社インフィニテック
芳賀 紳

~~~~~

行く前は、説明会を聞いても人件費が安いので、技術者を確保するには良いと言う話しがほとんどだったので、私が行くのは観光で行くしかないと思っていましたが、複数の方にお会いして話を聞いていくうちにその思いが少し違う気がしてきて、もしかしたら自分達も海外でビジネスが出来るかも知れないと淡い期待が膨らんだのも確かです。

ただ、海外でのビジネスとなると飛び来えなければならないハードルが幾つも有るので、国内のビジネスもまだ上手くいってないのに分不相応な考えをしてしまいました。笑って下さい。

今まで、この手の視察旅行は中国しか行った事が無かったので、その点では非常に勉強になりましたし、中国以外の国も十分ビジネスが考えられる事が解ったような気がします。旅行そのものは、皆さんのお蔭で楽しかったのですが、私が年のせい非常に疲れました。帰って来て、日曜日はぐっすり眠りましたが未だに疲れが取れません。

疲れが取れて、暫くしたらまた行きたくなる気がしますので、機会が有りましたら是非ともまた誘って下さい。

株式会社ビジネスアプリケーション  
浅野 悦男

私はこの数年間、市場開拓のため、一人でアセアン諸国を回っていましたが、団長の竹原さんに誘われて、参加させていただきました。

攻めあぐねていたフィリピンとインドネシアに行くということで期待していました。

一人で行った時とは別の角度の情報が入り、より立体的にアセアンを理解でき期待以上の成果です。

また同行の人たちからの、情報も有益でありました。

(株)ヒューマンキャピタル研究所  
梶山 桂

~~~~~  
これまでの出張は一人出張がほとんどで、特定の出張目的だけを意識したとても狭い範囲での出張でした。それに比べて今回のフィリピン・インドネシア視察ツアーは、幅広い団体・企業を数多く訪問できました。またツアー参加の皆様と業界情報に限らず各国情勢などの情報と意見の交換ができ、充実した視察ツアーになりました。

前回のマニラ訪問は1989年で、実に25年ぶりの訪問でした。当たり前ですが当時とは隔世の感があり、国の発展を実感出来ました。一方で、フィリピンは東南アジア諸国の中ではまだまだ所得水準の伸びしろが大きく、投資機会があると感じました。

ジャカルタ訪問は今年に入って3回目でした。前2回の訪問ではジャカルタのIT、特に会計ソフト市場は混沌としていて掴み処がないという印象が拭えなかったのですが、今回のツアーで当地の状況の理解が深まったことは得難い収穫となりました。

(株)ピー・シー・エー(株)
原田 一

謝 辞

最後にフィリピン・インドネシア現地にてご対応していただきました JETRO、企業及び教育機関のご担当者の皆様、また、ご訪問にあたりコーディネート等をして頂きました神田様、インテック様、岩崎様、インドネシア総研様、他関係者の皆様、大変お世話になったことをこの場を借りて御礼申し上げます。

今回のツアーが参加者あるいは会員にとって次なるビジネスの拡大につながることを祈念いたしますとともに、協会として実施できたことを大変感謝申し上げます。

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会
原 洋一